

令和 2 年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・**最終** )

両城 中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	年度始めに設定された目標、指標の適切さは維持されており、社会情勢の厳しい時、これを乗り越えられたと評価できる。教職員が、この目標、指標を共有し、教育現場で、実践されたことが伺われる。教職員の実践力、実行力を称賛する。次年度の目標、指標の設定においても、その継続性と連動性の飛躍を期待したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策においても、適切さが維持されたと評価する。目標達成のための方策は、その設定と比較して、継続性が、より一層、要請されるものであるところ、その継続性、一貫性が伺われる。教職員の日々の教育力と理念の堅実な保持が評価される。社会状況が良くない状態においても、これが、維持、堅持されたことは、特に、評価されるべきであろう。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	自己評価の結果と分析は、適切になされている。この分析は、客観性と公平性が伺われる。過度な評価もなく、分析が見失われたものもなく、その適切さは、一年を通して、言及されたものであると評しても良いと、評価したい。次年度の教育に連結されることを期待したい。次年度のより良い教育の礎となることをお願いしたい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	今後の改善策は、適切と評価する。この改善策を必然的に、次年度への教育に結びつけていただきたい。学校教育とその運営は、連続性と一貫性がなければならないと、評価委員会は、考えている。その意味で、次年度への連動性がなければ、意味をなさない。学問の継続性が、個々の生徒に望まれることと同様に、学校教育とその運営も、継続性が必然であろう。
その他		新型コロナウイルス感染症のため臨時休校等があり、再開しても、学校の新しい生活様式に基づいた教育活動でたいへんな苦労があったと思います。今後は、GIGAスクール構想の実現に向けて、ICTを積極的に活用した教育活動を推進してほしい。それにより、誰一人取り残すことのない個別最適化された学びが実現され、同時に、新型コロナウイルス感染症への対応、生徒の心のケア、学びの保障も合わせて期待したい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>現在の取組のPDCAを確実に進め、教職員全員が同じ方向で継続して取り組む。特に学習面では、今年度ははじめた「教えて考えさせる授業」の質を高めることで、次の2点の実現を図り、学校の教育力を向上させる。</p> <p>①学力の定着と向上</p> <p>②「考える授業」の推進及び「主体的対話的な深い学び」の実現</p> <p>ICTを積極的に活用し、新型コロナウイルス感染症対応、生徒の心のケア、学びの保障に向けても進めていく。</p> <p>教職員の意識を高め、学校経営感覚や参画意識を向上させ、学校のチーム力を高める。そのために、学校経営計画を基に、業績評価とリンクさせた、教職員一人一人の強みを生かした取組を進める。また、OJTによる取組を実施し、学校組織の機能化と人材育成を図りながら、限られた時間の中での質の高い働き方を進める。</p> <p>そして地域や保護者と連携をさらに進め、地域を協働し、将来、地域の担い手として活躍する人材を育てていきたい。</p>
--------------------	---